

# 潮騒通信「どっこい生きてます！」

## 依存症の回復から戦争について考える

8月は、あちこちで戦争に関する話題が取り上げられています。今はもう見かけませんが、以前は街角で腕や脚を失った白衣の傷痍軍人の姿がありました。アコデオンやハーモニカで軍歌を演奏し、「戦傷」と書かれた募金箱が置かれた物乞いのような風景を、私は複雑な思いで見ていました。先の大戦（太平洋戦争）の敗戦から68年となり、こうした戦争の直接体験者が圧倒的に少なくなりました。私も生後間もなく父親を戦地で失くし、戦争の暗い影を引きづっています。父親の記憶がないまま母子家庭の貧しい生活から3歳で養子に出され、そこで虐待を受けるなど不遇な子供時代を過ごしました。そして非行へと走り、暴力団の世界へと身を沈め、やがて覚醒剤とアルコール依存症に陥り、命以外はすべてを失いました。

歴史に「もしも…」は意味をなしませんが、もしもあの戦争がなかったら私もまっとうな人生を歩んだかもしれない、と思うことがあります。例え貧しくても両親のいる普通の家庭に育ち、ごく普通の幸せを手にしていたかもしれません。それだけに二度と戦争はしてはならないとの思いが人一倍強いのです。その私も人生の晩年にさしかかり、幸いなことに依存症から回復して新しい人生を手にすることができました。今は戦争とは異なるパワーゲームの怖さを身を持って説いている自分に、不思議な巡り合わせを感じます。

それでも世界から戦争がなくなる日は来るのでしょうか。核兵器の廃絶は夢物語に過ぎないのでしょうか。米国は2001年9・11テロを契機に、ブッシュ大統領が対テロ戦争を口実にしてイラク戦争を仕掛け、「これは正義の戦争だ」と強弁しました。しかし、どんな形であれ戦争には大義も正義もありません。戦争は最大のパワーゲームです。「力こそ正義」という弱肉強食の論理は、悲劇と悲惨しかもたらしません。それなのに世界は経済の行き詰まりを背景に各国で偏狭なナショナリズムが台頭し、日本もその傾向が強まっているように感じます。国力が弱ってくると、つい威勢のいい攻撃的な言葉に引かれてしまいますが、「いつか来た道」はもうゴメンです。

私は今こそダルクの存在に注目してほしいと思います。私の考えでは、ダルクの本質はマザーシップ（母性的な優しさ）にあります。母親の持つ理屈を超えた深くて広い愛情で権力や権威を無化し、パワーゲームに醉いたがる父性の論理を相対化していくビジョンを含んでいます。そうして、みんなが等しく命をリレーしていく、一種の平和運動みたいなものだと私は考えています。弱音を吐ける国の在り方は決して恥ではありません。果てしないパワーゲームから降り、互いに弱さを認め合い、依存症から回復していくダルクの不思議な治療メカニズムには、時代や社会の閉塞感を突破する未知の力が秘められていると確信しています。（施設長 栗原 豊）

SJTC  
SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2013(平成25)年

8月号 一部100円

## Contents

- P1 戦争について考える
- P2 「しおさい納涼祭」開く
- P3 農業自然隊に報償金
- P4 パソコン教室の発表会
- P5 就労支援実践講座6
- P6 各地フォーラムに参加
- P7 8周年フォーラム告知
- P8 近藤さんインタビュー16
- P9 全国受刑者からの便り
- P10 続・受刑者便り&俳壇
- P11 しおさい俳壇・特選句
- P12 行事予定&献金献品



初めての「しおさい納涼祭」は子供たちの歓声が…=記事2



# 初の「しおさい納涼祭」で暑気払い =子供達も参加、収穫した夏野菜を味わう=

得意のBBQ（バーベキュー）で盛り上がり、酷暑の夏を乗り切ろう。入寮者の希望で初めての取り組みとなる「しおさい納涼祭」が8月6日、の鹿嶋市宮津台の下津トリートメントセンター（NPO法人潮騒JTC本部）駐車場を会場にして開かれました。今後は真夏の施設イベントとして定着させたい考えです。

会場には、潮騒JTCの農業自然隊メンバーが精魂込めて農作業に取り組み、「潮騒青塚農場」で収穫したナスやピーマン、トウモロコシなどの野菜を使用した得意のBBQや焼きそばをはじめ、夏らしくかき氷やたこ焼き、ポップコーンの屋台が開設されました。祭りには、ふだんから交流のある同市平井の「ptune横丁保育園」（山下佳子園長）の園児及び学童保育の小学生ら約20人が招待されました。

この日の鹿嶋市内は雨が降ったり止んだりの不安定な天気でしたが、最高気温が30・5度、平均気温が26・8度（水戸気象台調べ）とかなりの高温だったため、園児たちの関心を最も集めたのが“かき氷”でした。園児たちは潮騒の入寮者が作ったかき氷の上に、イチゴ、レモン、ブルーハワイの3種類のシロップと一緒に掛けるなどして、混ざり合ったシロップの色や味などを楽しんでいました。バーベキューや焼きそばなど

を「おいしい」「おかわり」と歓声を上げながら、心ゆくまで満喫していました。満腹になった子供たちは、折悪しく雨になったにもかかわらず、施設内でかくれんぼなどをしてはしゃいでいました。山下園長は「みんな十分に食べさせてもらって、楽しかったみたいですね」と話していました。

また、この日は茨城ダルクが主催する恒例の夏季イベント、隣の鉾田市にある大竹海岸での海水浴交流に参加した横浜ダルク・ケア・センター（横浜ダルク）の仲間たちも帰途に立ち寄り、野菜と肉いっぱいのBBQなどを味わっていました。横浜ダルクのクリスさんは「一番おいしかったのがトウモロコシ」と述べた上で「潮騒さんのサービス精神に、みんな笑顔で笑っていましたよ」と話し、潮騒JTCの仲間たちに感謝の意を示してくれました。一行はその後、神栖市の海岸でサーフィンを楽しんだようです。（崎）



# 農業自然隊メンバーに報償金 ★プロジェクトの方向性に手ごたえ★

酷暑の下で潮験農業プロジェクトに取り組む仲間たちに対する報奨金授与式が7月19日、鹿嶋市宮中の潮験JTCディケア会議室ありました。収穫した夏野菜などを直売し、得られた益金を農業自然隊に報奨金として、労賃代わりに還元する試みです。労働の成果というには少額ですが、参加メンバーにとって少しでも就労に向けた動機付けになればと考えています。

式では潮験農業自然隊メンバーに栗原施設長から直接、報奨金が手渡されました。受け取った仲間たちは「酷暑の下での農作業はとても辛いけど、こうして働いたことが評価され、お金になることで報われたような気がする」「基本はボランティアだと

しても、お金になるなら動機付けの意味合いも違ってくる。参加者が増えるのではないか」「仕事は綺麗ごとでは済まないだけに、やはり働いたことが実際にお金になることは、大きな意義があると思う」などと感想を話してくれました。

栗原施設長は「ファイザー社の助成を受け2年目で潮験農業の方向性が見えてきた。自分たちの力で荒れ地を開墾し、これを畑に変え、そこに種をまき、農産物を育ててきた。それを収穫し、現金に換えることができた。農業経験のまったくない人達がここまでやり遂げたことは素晴らしいこと。この喜びをみんなで分かち合えれば」と語り、潮験農業の一連のシステム確立に手ごたえを得た様子でした。(k)



「生活保護受給者から納税者へ」。現在、継続助成2年目後半の取り組みの潮験ファイザープロジェクトですが、あえてこうした高い志を自分たちのスローガンに掲げ、「依存症者の自立に向けた職業訓練と就労支援のプログラム開発」に取り組んでいます。柱となる農業プロジェクトも形が出来つつあり、今回の報奨金の試みは布石の一つです。

報奨金を受け取る農業隊メンバー①と授与式風景②です。潮験JTCでは下津本部の駐車場にテントを張り、直売所を設けています③。



# パソコン教室の作品発表会開く

## ～佐藤講師「コミュニケーションスキルを伸ばそう！」～

昨年7月から潮騒JTCでパソコン教室の講師を務めている、ワーキングストレス研究所所長の佐藤浩さんを招いてのパソコン教室受講生作品発表会が7月25日、鹿嶋市宮中の潮騒デイケア3階食堂兼多目的ホールで行われました。

発表会では、受講生の仲間たちがこれまでに作った年賀状やチラシ、体験記などの作品をプロジェクトで映して紹介しました。佐藤さんは「みんな文字を入れるのが上手くなつた。最初はローマ字の変換表を見ながら打つてい

たが、最近では変換表を見なくても打てるようになった」と、受講生の進歩ぶりを評価しました。

後半からは、佐藤さんの専門分野である「ストレスと上手につきあおう」というテーマで講話が行われ、この中で佐藤さんは『良いストレス』と『悪いストレス』がある。乗り越えられないストレスが続くと『うつ』になる」と述べた上で、「人を褒めたことが無い人は褒められない」「ストレスは他人が作っているのではなく、自分が作っている。他人を変えるより自分を変えよう」と述べました。



潮騒JTCで取り組んでいる農業プロジェクトについて佐藤さんは、「ストレスとは『自分が楽しい』と思えばストレスの解消になるが、そうでないとストレスがたまる。農業は自然と触れ合いながら、各自のペースでかかわるのがいい。社会ではストレ

スは避けられないが、農業は競争にさらされる場面が少ないので、依存症者の職業訓練には向いていると思う。苦労して生産した農作物が売れて結果が出れば達成感につながり、仕事として有効な分野ではないか」と述べました。

総論として依存症の人たちには早急な就労実績を求めるのではなく、「施設での回復プログラムに取り組むことで苦手な人のコミュニケーションスキルを向上させる工夫が大事」と助言。潮騒ファイザープロジェクトにも「リーダーが意識して農業メンバーのコミュニケーションスキルを伸ばすように工夫したり、下支えすることを忘れないで」と助言しました。

終了後、佐藤さんは「受講生には文章能力の高い人やパソコン能力の高い人がいる」と約1年に及ぶ講座の感想を話してくれました。(崎)

**【佐藤 浩氏】**…ワーキングストレス研究所所長（本部・鹿嶋市須賀）。関東、東北地区を中心に、県・自治体を主な対象として産業心理相談やメンタルヘルス講習会を行っている。もともと技術畠出身でパソコンに精通している。

### =あなた方が主役。8月が誕生日の仲間たち=



左からセイジ、ガク、ナベ、ヨコの皆さん

# 「回復が第一、心が落ち着いたら働く！」

## \*ステップ・仲間・ミーティングを原点に\*

潮騒ファイザープロジェクトの第6回就労支援実践講座が8月15日、鹿嶋市宮中のまちづくり市民センターで開かれ、アルコール依存症の回復者で潮騒JTC支援者(法人理事)の恵一朗(本名・永山清)さんを講師に迎え、依存症者の原点に立つ示唆に富む講話をして頂きました。これまで社会復帰をにらみ、支援機関や農業関係者から就労についてのノウハウやテクニックを学ぶことに主眼を置きましたが、改めて依存症者の原点確認が大事であることを今回、恵一朗さんから教えられました。(市)

◇◇◇

恵一朗さんは自らの生い立ちから切り出し、機能不全のアル中家庭で育ち、子供の頃からのゆがんだプライドが依存形成の下地になったことを明かしました。持ち前の才覚から20代にして仕事で成果を上げ、高給を得ます。夜の繁華街に繰り出してキャバレーとスナック通いに明け暮れ、株などギャンブル的な利益で我が世の春を謳歌し、一時は成功者の道を歩みます。

しかし、人生そんなに甘くはありません。次第に依存の元凶であるアルコールに溺れて、高慢な自信がへし折られます。夜の街に高級車で繰り出し、大事故で九死に一生を得たり、単独交通事故で計7台の車をだめにします、自転車事故や歩行中にも交通事故に遭遇します。やがて仕事の面でも信用を失うようになり、飲酒問題で一世一代の大変な契約をダメにしたこと、高給取りだった会社もクビ同然で去る結果となりました。

私生活では不倫にも似た結婚や同棲を何度も経験しますが、一方的に妻や子供に愛情を押し付けてしまい、普通の家族の営みができません。そのうちに借金も膨らみ、仕事を転々とします。飲酒によっ

て20回も勤め先をクビになり、トラブルを起こしては警察とシャバを往復する人生に転落します。そこまで落ちても高慢な自分を変えられず、ホームレスになりきることもできませんでした。

「もう自分でどうしようもない。助けてほしい」。自ら精神科病院に助けを求め、ようやく底つきします。40歳になる直前でした。そこから回復の歩みに踏み出し、AAにも奇跡的につながります。以後は何人かのスポンサーを得て、本格的に回復のプログラムに取り組みます。今では自分の回復途上の歩みをメッセージするまでに成長しています。また仕事の面でも鉄工関係の職を得て、今では大事な戦力として会社からも厚い信頼を得ています。

◇◇◇

恵一朗さんは潮騒JTCのような中間施設を経ずに個人的なつながりで回復の道を歩み、就労できましたが、これについて「施設につながらないで働いているのはステップとスポンサー、そしてミーティングと仲間のおかげ。このプログラムはとても靈的で、自我やゆがんだプライドを改め、自分に真の謙遜をもたらしてくれる。仕事で体はきついが、心はとても楽になれる。自分以外の力に身を委ねて、今はクリーンの喜びを感じている」と話してくれました。

依存症者が社会に出て働く意味について恵一朗さんは、「たった一杯の酒が止められないのに社会で仕事をするなんて土台、アル中には無理な話。仕事では常に嫌な事やさまざまな問題にぶつかり、まともにはいかない。アディクトには何年たっても“今日一日”しかない。だからこそ仲間とミーティングの中で本音を吐きながら自分の靈性を保ち、心が落ち着くまでは働くかなくていい。そもそも働くことは、傍(はた)を楽にさせること。自分だけが儲けていい暮らしをすることではなく、みんなが楽に暮らせて幸せになること」と結びました。(み)



## 仲間たちの活動～各地のフォーラムや集いに参加～

### 茨城ダルクフォーラムの大鼓競演に感動！

「原点～今日一日～」をテーマに茨城ダルク21周年フォーラムが7月21日、結城市の市民文化センター・アクロスで開かれ、潮騒JTCからも6人の仲間が参加しました。茨城ダルク喜（よろこび）組の愛泉太鼓をはじめ、女性シェルターの琉球太鼓（エイサー）、富山ダルクの岩瀬太鼓「海岸組」など太鼓の競演に刺激を受けました。岩井喜代仁代表は「地域に出て太鼓をたたくことで回復につながる」と強調していました。



#### ●8月3日に開かれたAA館山グループのフェローシップに参加してきました (参加したメンバーの集合写真です)



#### ★仙台ダルクフォーラムに参加して(エン)

こんにちは。薬物依存症のエンです。8月3日の仙台DARCフォーラムに行ってきました。仙台までは鹿嶋から4～5時間かかるので、朝5時出発しました。実は仙台は僕が育った街です。もう10年以上も離れて暮らしていますので、街並みもすっかり変わってしまい、少し寂しい気持ちで車窓から外の景色を眺めていました。会場は僕が住んでいたところの近くなのでスグ分かりました。駐車場に車を止めたら、横浜ダルクの仲間たちも同じ場所に車を止めたので、さっそく

ハグをしました。潮騒で収穫した野菜をあげると、とても喜んでくれました。

仙台DARCフォーラムへの参加は3回目で、なかでも施設長のツトムさんの話は面白く、引きつける魅力があるので楽しみでした。仲間の話を聞き、昼休憩になって、仙台に住んでいる母も会場に駆けつけてくれ、一緒に昼ご飯を食べました。午後にはシンポジウムがあり、近藤さんらの話に耳を傾けました。残りの人生をどう生きるか、何を残して死にたいか、残ったものは仲間の回復だというような話を聞いて、とても感銘を受けました。DARC名物の琉球太鼓では壇上に登り、みんなで踊りました。フォーラムを無事終えた後、今回一番楽しみにしていた（その為に来た？）仙台の牛タンをとてもおいしくいただき、帰路につきました。また来年も牛タンを、いや、フォーラムを楽しみにしたいと思います。

(エン)



# 潮騒JTC8周年フォーラムを開きます

## =極道から聖職者へ~ゲストに進藤龍也牧師=

### 平成25年11月17日(日)・鹿嶋勤労文化会館で

潮騒ジョブトレーニングセンター（潮騒 JTC）は、その原点となる施設（当初は任意のグループ）が2005年秋に鹿嶋市の隣、神栖市内の小さなアパートの一室で産声を上げました。翌年3月には鹿嶋市内に移動して「鹿嶋潮騒ダルク」を名乗りましたが、スリップが相次ぎ試行錯誤が続きました。しかし、継続は力との言葉通り、仲間たちはハイヤーパワーのご加護で再生します。07年9月には鹿嶋市郊外に施設を移転し、当初から取り組む就労支援を柱にする依存症リハビリ施設として現在の「潮騒ジョブトレーニングセンター」と名称変更し、以後は少しづつ陣容を整えて入寮者も増え、現在に至っています。潮騒 JTC としての活動は6年ですが、私達は困難な中で活動をスタートさせたグループ活動が原点と考え、8周年と位置付けました。今回は施設を立ち上げ、独立時からリーダーとして頑張ってきた施設長の栗原豊がダルクに繋がってクリーン10年の節目を迎えます。仲間とともにその喜びを分かち合いたいと思います。しかも地元、鹿嶋市での開催です。プログラムは午前の部がファイザー製薬による助成事業（前年度からの継続）の成果を発表する潮騒ファイザープロジェクトフォーラム、後半（午後の部）が原点となる施設開設8周年の潮騒JTC公開フォーラムです。概要は以下の通り。

- 名称：「潮騒ジョブトレーニングセンター8周年フォーラム」
- 日時：2013（平成25）年11月17日（日）
- 会場：鹿嶋勤労文化会館多目的ホール（茨城県鹿嶋市宮中325-1、TEL0299-83-5911）
- 主催：NPO法人・潮騒ジョブトレーニングセンター（本部＝茨城県鹿嶋市下津210-10、TEL0299-77-9099）
- 担当：加勢誠=連絡はディケア施設（鹿嶋市宮中4-4-5、TEL0299-95-9991）
- メイキングスト講師の進藤龍也牧師について

「私は悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち返って生きることを喜ぶ。立ち返れ、立ち返れ、お前たちの悪しき道から」（新約聖書・エゼキエル書33-11）一この言葉で生まれ変わった進藤牧師の熱い魂の叫びを、多くの市民の皆様にも伝えたい。そんな思いから、私たちは初めて進藤牧師を鹿嶋市にお招し、講演をお願いしました。

**【進藤牧師プロフィール】**1970年、埼玉県川口市生まれ。高校を中退後、18歳でヤクザにスカウトされ暴力団組員に。組長代行となるが覚醒剤が原因で降格。3度目の服役中に差し入れの聖書を読み回心。出所後洗礼を受け神学校に入学し、卒業と同時に開拓伝道を開始。現在は川口市にある「罪人の友」主イエス・キリスト教会の牧師として各地の受刑者との文通や面会を通じて福音を伝えている。著書に「人はかならず、やり直せる」（中経出版）「未来はだれでも変えられる」（学研パブリッシング）「立ち上がる力」（いのちのことば社）等。

我が回復記

「どうい私も生きています」NO5  
（依存症のサカです）

横浜ダルクから移った茨城ダルクも生活しやすかったのですが、ちょっとした人間関係の歯車が合わなかつたことや、施設移動させられるなら潮騒JTCへと思つていたので、2ヶ月そこそこで退寮させてもらいました。迷惑を掛け続け、裏切る感じで退寮したことは後悔していますが、実は横浜ダルク時代に潮騒から研修で来ていたK氏との幸運な出会いがありました。彼は死んだ娘と同年齢でしたが、年の若さに比べて人間の器が大きく、こんな人の側で回復できたらなあとさえ思っていたのです。ともかく山あり谷ありの中、どうにかこうにかK氏のいる潮騒JTCへと自分の足で来ることが出来ました。でも、例によつて初めの3ヶ月は最高のスタートを切るのですが、施設のやり方が他のダルクと違う、日曜日に休みが無いとか、いろいろと理由づけをして施設批判をし、またしても自我を出し放して、やけくそになり覚醒剤に手を出し、車一台をオシャカにするトラブルを引き起こしました。スポンサーに成ってくれた栗原施設長を裏切る結果となり、3度も立て続けにスリップして「どん底」を味わいました。大ウソつきのレッテルを張られたのもこの時期です。（続く）

# 近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL16

宗教的に言うと、99匹ほっぽっておいて残り1匹ひとりのを立ち直らせていくのは大切なこと

## ●管理社会は「線引き」が幅を利かす

—「備えあれば憂いなし」ではありませんが、あちこちでリスク管理という言葉を耳にします。行き過ぎると、ぎすぎすした管理社会にならかねないです。

**近藤** 僕も体験的にそう思う。目が粗く、ダイナミックな活動が身上のダルクにはなじまない。でも、管理社会になるとそれはいかない。いろんな場所で「線引き」が幅を利かす。守りが優先される社会では、どうしても入り口を狭くする。問題を起こす人は願い下げ、ってね。それって一番手っ取り早いやり方だよね。人を選別するのには網を掛けて、ふるいに掛けりやあいい訳だ。高級マンションじゃないけどオートロックで管理強化して不審者を入れない。守るべきものが多いほど厚い壁をつくり、差別と選別に神経を遣うようになる。でも、ダルクのように社会から落ちこぼれたような人々はどこに行けばいいの？ 人里離れた山の中か、誰もいない離島か。それはないよ。ダルクは無差別テロ事件を起こしたオウム真理教のような反社会集団じゃないんだから。現実はそれはいかない。

もともと問題の無い人、珠玉のような人は絶対にダルクには来ない。結果、僕のようなろくな奴しか残らない（笑）。だけど、そこがダルクの面白いところで、割合選別されて回復への期待を集めて入寮した人なんかが意外に早く行き詰って死んじゃう。逆に、ふるいから漏れて残ったやつの方が命を長らえて回復のレールに乗ったりする。こればかりは分らないんだよ。案外、失うものは何もないっていう奴の方が開き直って回復しちゃうんだ。

## ●問われるダルクスタッフの力量

一個人的には、そこが依存症の面白いところっていうか、文学や哲学のテーマに通じるような奥の深い世界に思えるんです。

**近藤** どんな奴が良くなるかというのは予想がつかないじゃないですか。ヨレでどうしようもない奴でも医師



の診断を受けてきちんと薬飲んでいれば、そのうち少しシラフになってさ、依存症から回復して素晴らしい光を放つ人もいるわけで。これだけは神様にしか分からない。

ところが、ふるいにかけるというやり方は選別だからさ。そうすると最大公約数というか、そっちの方が安全なのかもしれないけどね。宗教的に言うとだよ、九十九匹ほっぽっておいて残り一匹ひとりのを立ち直らせていくというのは、やっぱり大切なことだよね。九十九匹、常識的な奴はほっときゃあ

自分でちゃんと回復していく。でも放っておいたら問題起こすなという奴は、ちゃんと対応してケアしてやんなきゃならないわけで。そこでこそダルクのスタッフの度量が問われるんだな。

## ●「ダルクは宝くじみたいなもんです」

—どうしても目先の力ネが欲しいと公的援助に頼る。すると線引きが求められて、数字の上で実績を上げなきゃならなくなる。そこにジレンマを感じます。

**近藤** 回復率を考えると、この活動はやめたほうがいい。回復率を押し付けられると、金をもらえるようになると、必ずそうなってくるから。必然的に。「なんだ、国家の税金、血税使って、さっぱり一人もよくならないじゃないか」って。「そのうち良くなりますよ」と言えればいいんだけど。僕は「ダルクは宝くじみたいなもんですから」と開き直ってるけど。。

—でも対行政、対国家に対して、そこまでもの言えればいいんですけど、なかなか近藤さんのように…。

**近藤** 僕は言いますよ。税金使ってないから。最終的にケツまくる。びた一文もらったらだめだよね。じゃあ「生活保護もらっているでしょう」と言われたらどう答えるか。僕は、それは入寮者個人がもらっているわけで、確かに税金だけど、僕が税金を使っているわけではない。うちは家賃をもらっているだけだから、と。もちろん法外な家賃をもらったら、それは貧困ビジネスになっちゃう。そこは注意しなけりゃいけない。（次号に続く）

## 全国受刑者からの手紙～潮騒通信「とっこい生きてます！」読んで

### ■怒りはない、今の心境はただむなしいだけ

栗原施設長、実は私には父と母がおります。母はアルツハイマーを患い、現在植物人間の状態です。父は、母の看病をしている少し変わり者の人です。その父から手紙が来て、あなたとはかかわりたくない、これからは一人で生きて下さい、と。怒りが湧きました。体がふるえていたのをはっきり覚えています。あげくの果てに父と同じ市内に住民票を移したこと、頼むから他所へ行ってくれ、移してくれという意味でしょう、こういう文面が届きました。今の心境はただむなしいだけです。怒りはありません。必ず自分は変わる、変わりたい、変わらないといけないんだ。社会の一員になる、信用され、信頼され、認められる人間になりたいと、一段と強く思うようになりました。施設長、どうかこんな私ですがよろしくお願ひします。

(秋田県 I・K)

### ■社会での私の時計は未だに止まったままです

さて私にもようやく長いトンネルから出口の光が見えてきました。仮面接、そして本面接がありました。逮捕されてから4年、ここに来た当時は残刑が4年もあった為か、仮釈放なんて全然実感どころか想像すら出来ませんでしたが、過ぎてみれば時の経つ早さにとまどいを覚えます。ここでの4年と社会で過ごす4年とは全く時間の流れ方は違います。塙の中では4年という歳月が経ちましたが、社会での私の時計は未だに止まったままです。この時計のズレを直すのは本当大変な事だと思います。私は結果的に栗原さんを裏切るような形で保護会を帰住地にしました。栗原さんは私と真剣に向き合って下さいましたが、私は自分の考えを通してしまいました。

これまでの栗原さんとの手紙のやり取りで少しずつではありますが、自分が間違っていたと素直に認める勇気が持てるようになってきました。これは私にとっては大きな変化だと思っています。過ちを認めれば周囲のものがこちらを見直すだけでなく、自分自身を見直すことが出来ると気付きました。覚せい剤に対する認識は、栗原さんからすればまだまだ不満だらけだと思いますが、私の出所と同時に栗原さんとの縁が切れてしまうという様な事にはなりたくありません。栗原さんや潮騒は私にとってそれだけ大きな存在になっています。私には生まれ変わって生きていく為の大きな勇気なのです。最後に今

まで本当にありがとうございました。そして、これからもどうか宜しくお願ひ致します。

夕空を千変万化に染め上げる／未知へと進む夕焼けの道

(北海道 T・H)

### ■正直、仮釈を1か月でもいいのでもらいたい

(潮騒通信に) 仮釈狙いの入寮者が増えているとあります、私自身決して裏切る事はしませんし、確かに、刑務所の中にいると仮釈をもらいとりあえず入寮するに行って逃げてしまうという人がいる事は耳にします。私の近くにも悪い考え方をする人もいます。正直、そんな人から逃げてしまえばと言われた事はあります。私はきっぱりと断りました。せっかく、栗原さんと出会え、回復プログラムを頑張ると心に誓った以上、そんな裏切る事は出来ません。私も今回を良い出会いと思い、人生をやり直したいのです。正直、仮釈を1か月でもいいのでもらいたいという思いの方が強いです。誰でも、仮釈をもらいたいと思います。

(東京都 K・E)

### ■いつでも薬なんて止められるとタカを括っていた

…(略) 小生は前妻の間に男の子が一人居ました。それまでは覚せい剤に溺れて、いつも婆婆では数年ともちませんでした。今度こそ、この子が一人立ちするまでと、その決意が10数年も続いたのです。ところが職場の出勤中に交通事故に遭いまして、頭部に10針もの傷を負ったにも拘わらず会社側は労災にしてくれません。裁判などを起こしてまで戦ったところ、その会社は結局何も見ずに私は解雇され、任意保険で7級から14級と落とされ、その歳月3年と少々、受けた金額は130万円程度に。自分の選択ミスに再び覚せい剤に走ったのです。

10年以上も過ぎたのだから、それにいつでも薬なんて止められるとタカを括ってました。甘かったのです。周囲の甘い意見などを聞き過ぎて、今までの例を訊き込み、執行猶予と思っていたところ1年2ヶ月の実刑を言い渡されました。ましてや前妻たちとも約束を破ったとして疎遠な状況となり、今刑に至っているのです。その今刑のスピード的早さは、自分の意固地がそうさせたのでしょうか。本当にそちら潮騒で頑張らせて頂けるのでしたら、小生、また一からやり直すつもりでいるのでよろしくお願ひ致します。

(島根県 M・T)

## ■潮騒の青パパイヤ栽培の取り組みに大きな期待

潮騒通信の中で青パパイヤ栽培の取り組みが書かれていましたが、パパイヤが関東で?と驚いています。どうしても南国のイメージがありますから。今世の中はTPP問題で、特に農業問題で大きく揺れています。日本の農業が生き残っていくには、強い「ブランド力」、高くて良いもの、日本でしかできない安心なもの等が必要とされてくると思います。潮騒の青パパイヤもその様に育ってくれると嬉しいものです。一次産業(1)×二次産業(2)×三次産業(3)=六次産業、といわれている様に、将来的には潮騒で青パパイヤを加工から商品の販売まで育っていく構想とかはあるのでしょうか?個人的にはすごく興味がありますし、その様になれば施設の充実と雇用の方へつながっていくのでは?と勝手に想像しています。もっとも潮騒は依存症の回復が第一の施設ですから、本筋から外れてしまうと本末転倒という事になりますね。NPO法人ですから営利的な事はそもそも出来ないのでしょうか?勉強不足ですいません。そんな事よりもステップの1から始めて、足元をしっかりと固めてからですヨ!と言われそうですが…。(北海道 T・H)

## ■60歳で回復した栗原さんの言葉に勇気をもらう

私の場合、猶予中であった事、情状証人、身元引受人は無しの状況なので満期の実刑です。昔、コマーシャルで小指を立てて“私はこれで会社を首になりました”というのがありましたが、“私は薬で人生を棒にふりました”というのが現実です。入所を望んでも3年後でしょうか?それにお金もないで嬉しい話ですが、諦めています。私も残りの人生を人の役に立てればと思っていますが、なかなか難しいですかね?ただ、私は今回司法関係の人達に恵まれました。覚せい剤乱用は病気である事、自分の意志の弱さ、依頼心の強さ、断薬は他人の協力なしでは難しい事等です。最後は栗原さんの“人生捨てたもんじゃない”60歳でヤク中からの脱出、この言葉凄く良いですね。私は満期の時に還暦なんです。実は今後の3年をどうすれば良いのか、その先が見えなかつたのでこの言葉に勇気を貰いました。有難うございます。でも、初めての刑務所、不安で怖いですね。そうそう、栗原さんの新聞の笑顔は良い顔していますね。今後もお体をご自愛の上、多くの覚せい剤乱用者を救ってあげて下さい。

(東京都 T・S)

~7月のお題=「七夕」~

## しあさい俳壇

~選者=桐本 石見先生~

### 七夕の夜空いっぱい夢あふれ

コバ

七夕の祭は関東では陽曆では陰曆が多い。星祭そのものより商業化し観光化もしているが、改めて子供心に帰り夜空を眺めると、昔への思いや今の夢が広がる。歳を重ねても夢は持ちたい、それが生きる支えにもなる。ロマンのある句です。

### 七夕や夕焼け雲の彼方より

エゾ

七夕の祭は仙台の様に観光的なものもありますが、幼稚園などの可愛い祭もある。その七夕の日に天の川や彦星、織女を待つ彼方は今は夕焼け雲。夏の夕焼けは荘厳でもあり、七夕を待つ心にも叶う景の大きい句です。

### 天の川心すすぐる夜更けかな

長吉

原句の意はこの詠かと思い少し変えました。夜も更けて頭上に天の川を仰ぐ、その星の煌めきに我が心も洗いたい思いになる。この鹿嶋でも満天の星空を眺めると心も澄む、実感の句です。

### 笹かざり一星見上げて願ひ込め

イチ

七夕には笹に飾りと共に願い事を短冊に書いて吊るし、幼稚園や病院などで飾るが、夜になって星にも願いが叶う様に祈る。小児病棟などでは祈る子もいる。人の世に祈り願いが多い。切実な句。

### 七夕の星を見上げる利根

?

原句は少し変えましたが、これで景の見える詠になります。七夕の星は牽牛織姫を始め他の星もロマンを秘めて美しく見えるし、利根川も星が映えて天の川にも思えます。

# 受刑者の作品

哀れの句です。

もうひと皮脱ぎたきほどの暑さかな

年々の地球温暖化や自身の歳にもよるが暑さが身に堪える。男なら半裸になつても皮一枚脱ぎたいくらいだ。句の作者の環境には冷房装置は無いかも。俳諧の

章三郎

泣き顔となりて崩れし花火かな

今は揚げ花火にもキティーちゃんやハート形などあり子供達を喜ばせるが、風向によつては顔形も早く崩れる。また普通の揚げ花火も見方によれば泣き顔や笑い顔に見えるかもしれない、自身の心の持ち様もある。実感の景の見える句。

章三郎

おめでとう!!  
今月の特選句です

七夕に願いし夢よいつ叶ふ

(オノ)

七夕は本来は機姫の祀りで、機を織る女子の上達を祈る祭が牽牛星、織女星の天の川伝説に重なつて今の七夕になった。笹飾りの短冊に願いを込めて書く、今の境遇ではその願いも何時に叶うか知れない、子供とは別に哀れの込もる句です。

仙台の街に妹との星祭

(アベ)

仙台の七夕は政宗公の頃より始まり、幾多の変遷をへて今の様な観光も兼ねた催しになつた。その七夕に妹と見物に出かける。妹は昔は妻や恋人のことである。艶冶をこめた句です。

浴衣着の乙女に思ふ織女星

ぼち

七夕祭は機織りの女子の祭でもあつたので、男性は「こと」などんな美しい乙女が機織りをするのかと、想像を巧みにする。実は野麦峠の悲話の様なのが、浴衣の娘に織姫を想い恋もう句。

三代の願ひを吊るす星祭

コタカ

この詠は家庭での七夕を思う。幼稚園の子が持ち帰った笹飾りに足して、父母や祖父母の短冊も飾る景を彷彿し微笑ましい句。年代により異なるが、老いには願いが、子供には夢がある。

天仰ぎてき母思ふ星祭

芝

原句は少し変えましたが、これで七夕に亡母を思う詠になります。星祭は一般には妻や恋人を偲ぶ句が多いのですが、七夕はもともと機を織る女性の祭なので、天の川の空を仰ぎ母を偲ぶのも星祭に通う心になります。哀れを込めた句です。

北浦や日暮れの澄みに天の川

ヒロ

原句を少し変えましたが、これで景の見える詠になります。北浦は昔は流海でしたが今は湖、日も暮れて空の澄みに天の川が見える。星の瀧瀧を思い、また我が青春を顧る句です。

# Information

## 行事予定(8月~9月)

- 8月 12日 潮騒海プログラム(鹿嶋市平井海岸)  
 15日 ファイザーP第6回就労支援実践講座  
 17日 秋元病院メッセージ  
 19日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務  
 25日 潮騒家族会8月定例会  
 26日 潮騒入寮者8月誕生会  
 29日 潮騒俳句会(しおさい俳壇)8月例会  
 30日 琉球太鼓練習(川崎ダルク)  
 9月 15日 大阪ダルク20周年フォーラム  
 23日 第4回リカバリーパレード「回復の祭典」  
 28日 山梨ダルク5周年記念感謝フォーラム



## 献金を頂いた方(8月20日現在)

- ▼小岩井商事(株) 小岩井重光様
- ▼山下 桂子様 ▼石井 照明様
- ▼内堀 高良様 ▼高野 敬子様
- ▼小橋 ひとみ様 ▼杉本 勇蔵様

## 献品を頂いた方(8月20日現在)

- ▼堀内 誠様 ▼中川 孝二様
- ▼勝間 春江様

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて頂いております。どうぞご理解の程をお願いします。

【施設側からのお願い】潮騒JTCでは使わなくなった中古パソコン、中古の車いす等の献品を求めています。施設での回復活動や日々の生活、就労支援活動などに必要なので、ご協力をお願いします。

## 編集・発行

### 特定非営利活動法人

#### 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10

TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

#### 潮騒リカバリーホーム(中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16

TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

#### 潮騒スリークオーターハウス鉢田

〒311-2113 茨城県鉢田市上幡木1113-39

E-MAIL [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

発行所 郵便番号一五七一〇〇七三  
 東京都世田谷区砧六一六一一  
 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

定価一〇〇円  
 (会費に含む)

## 編集後記 どこに行っても「暑い(熱い?)ですね」と挨拶を交わす、酷暑の夏。潮騒も高齢入寮者が多いだけに、暑さ対策や健康管理には神経を遣う。もっとも冷房の効いた部屋で1日中過ごすのは体によくない。炎天下の運動は論外だが、室内でもいいから適度に汗をかき、冷たい飲み物をとりすぎないこと。それにしてもこの国にはビールのテレビCMがなんと多いことか。酒に寛容な国とはいえ、タレントがうまそうにビールを飲むCMばかり。企業の売らんかんな姿勢はいいとして、ほんの少しだけ依存症についての配慮がほしいものだ。❷

## 今月のベストアンダル



今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができます。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。